

H317

H13

3

# 40.9 三大風水害に関する 災害対策の概要

昭和40年 10月

福井県立図書館

☎(0776)24-5167



1040314260

福井県防災会議

寄 贈

第 18506 号

県 財 政 課

昭和 44.11.-5

目 次

第 1	応急対策の経過	-----	1
第 2	被 害 状 況	-----	9
第 3	気 象 状 況	-----	15
第 4	県の活動状況	-----	19
第 5	防災関係機関の活動状況	---	37
第 6	市町村の活動状況	-----	43

# 第 1 応 急 対 策 の 経 過

日 時	気 象 及 び 被 害 発 生 の 概 況	応 急 対 策 の 概 況
昭和40年9月		
9 日 時 分		
14 00	大雨注意報 (台風23号)	
10 06 30	台風情報 ㊦1号	
" 07 00	風雨注意報 波浪注意報	
" 08 45	台風情報 ㊦2号	
" 09 30	暴風雨, 波浪警報 洪水注意報	㊦1 配備体制  県下各市町村に対し災害対策に万全を期するよう指示
" 10 30	台風情報 ㊦3号 (防災気象説明会)	県水防指令
" 12 00	県下各地で暴風による「ハサ」倒壊が急激に増加 大野市富田小学校倒壊 国鉄急行, 準急, 普通列車の一部運休	被害状況の収集に全力をあげる  庁内電話を増設 防災関係機関と情報収集伝達を緊密にする。
" 12 20	台風情報 ㊦4号	県下各市町村に対し台風情報伝達
" 12 30	私鉄一部運休, バス全線運休  県下で約 60,000 戸停電	自衛隊各部隊に対し情報伝達をひんぱんに行なう。
" 12 45	台風情報 ㊦5号 県庁舎の屋根 (トタン) 吹飛ぶ	県下各市町村よりの被害報告が急増
" 13 00	上中町にて新築中のアパート全壊	
" 13 30	福井市内で機業場全壊 和泉村で発電工事飯場全壊 1人死亡	
" 13 43	福井で瞬間風速 42.5 m を記録 (福井地方気象台開設以来最大)	
" 14 00	武生市で住宅倒壊 鯖江市西福寺本堂倒壊	
" 15 30	台風情報 ㊦6号	県下各市町村に対し台風情報伝達
" 16 20		中央防災会議, 消防庁へ被害状況速報

日 時	気象及び被害発生 の 概況	応 急 対 策 の 概 況
10日 16時 20分		報道機関に対し被害状況の中間集計を 発表
" 16 35	暴雨注意報 波浪注意報 洪水注意報	県下市町村に対し各注意報を伝達し、 被害状況を早急には握するよう指示
" 21 45	台風情報 7号	
" 23 00		県下の被害状況集計 (速報)
11 05 00	風雨、波浪、洪水注意報解除	
" 08 30		県下市町村に対し被害状況の早急取ま とめを指示
" 12 00		被害状況報告収集、集計
" 15 30		県下の被害中間集計 死者 3人 重傷 18人 軽傷 60人 被害額 2.145 百万円
" 17 00		中央防災会議、消防庁へ速報報道機関 に発表
" 21 00		水 1 配備解除 県下の被害状況集計結果 死 3, 重 18, 軽 60 被害額 2.501 百万円
13 16 00		県下の被害状況集計結果 死 3, 重 21, 軽 69 被害額 3.154 百万円
14 10 30		県下の被害状況最終集計 死 3, 重 21, 軽 69 被害額 3.178 百万円 中央防災会議、消防庁へ報告
" 17 00	大雨注意報 (奥越豪雨) 大雨注意報 洪水注意報	関係市町村に対し警戒指示

日 時	気象及び被害発生 の 概況	応 急 対 策 の 概 況																																			
14日 17時00分	西谷の雨は特に激しくなる	後の調査で判明したもの 当時電話不通で状況把握出来ず																																			
" 19 00	奥越の河川気激に増水 中竜鉱山面草たい積場取水坑土砂に埋まる。																																				
" 21 40	" 雨水が溢れはじめる																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="8">笹生川ダムの雨量</th> <th>15日</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>17時</td> <td>18</td> <td>19</td> <td>20</td> <td>21</td> <td>22</td> <td>23</td> <td>0</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>18時</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>1</td> </tr> <tr> <td>23<sup>時</sup></td> <td>32</td> <td>72</td> <td>89</td> <td>79</td> <td>78</td> <td>82</td> <td>41</td> <td>33</td> </tr> </tbody> </table>		笹生川ダムの雨量								15日	17時	18	19	20	21	22	23	0	1	18時	1	1	1	1	1	1	1	1	23 <sup>時</sup>	32	72	89	79	78	82	41
笹生川ダムの雨量								15日																													
17時	18	19	20	21	22	23	0	1																													
18時	1	1	1	1	1	1	1	1																													
23 <sup>時</sup>	32	72	89	79	78	82	41	33																													
" 22 30	西谷村長より「救援タノム」の要請を 水防無線を通じて県河川課が受理	消防防災課員非常招集 県水防指令																																			
" 23 50	大雨警報 洪水警報	県災害対策本部設置 水2 配備指令 関係職員非常招集																																			
" 24 00		九頭竜水系市町村に対し、特に避難に 的確を期するよう指示 県下各市町村に警報、災对本部設置を 通報 防災関係機関に対し情報収集の緊密化 を連絡 自衛隊各部隊に対し情報伝達																																			
15 00 00	勝山市通行中のタクシーかん没 1名 死亡																																				
" 00 15	建設省水防指令																																				
" 01 10	西谷村の状況水防無線にて入るが極めて悪化しつつある																																				
" 01 35		自衛隊（14 連隊，322 地区施設隊， 水6 航空団）に対し連絡幹部の派遣要 請																																			
" 01 40	大野市内も各地で破堤し事態は悪化																																				

日 時	気象及び被害発生 の 概況	応急対策 の 概況
15日 02時 00分	建設省水防指令 勝山市内にも被害続出	自衛隊災害派遣必至とみて、陸上自衛隊が10師団司令部に情報連絡  航空自衛隊に対し偵察要請 (空明けと共に飛ぶと了解) (後で判明)
" 02 30	和泉村中竜鉦業所面草たい積場流失	県災害対策本部の緊急本部会議を開催 (消防防災課内)
" 03 40		本部長(知事)以下全員出席 大野市西谷村に対し災害救助法適用
" 04 00		
" 05 55	勝山市北谷町で山崩8人生埋4人死亡	
" 06 00		陸上自衛隊に対し災害派遣要請 (大野, 西谷 138名)
" 06 45	西谷村との通信途絶	
" 07 00	大雨情報	福井県災害対策本部 奥越地方本部設置 (大野土木出張所)
" 08 30		勝山市に対し災害救助法適用
" 09 00		県警中管へヘリコプター要請(大阪, 愛知)  県警機動隊西谷村救援に出発 " 大野市内で救援開始
" 10 10		航空自衛隊偵察機 奥越方面へ向うも視界不良のため偵察不可能 同ヘリコプター福井に到着したが奥越地方の飛行不能
" 10 50		陸上自衛隊が14連隊先発隊, 大野到着(23名)
" 11 10		同上自衛隊 1,000食分の食パンを笹又峠經由西谷村へ運搬のため出発
" 12 00		和泉村に対し災害救助法適用
" 12 45		消防庁, 中央防災会議に被害速報
" 13 00		陸上自衛隊46名大野市到着, 直ちに 応急対策に従事

目 時	気象及び被害発生の概況	応急対策の概況
15日 14時00分		陸上自衛隊30名勝山市到着、直ちに 応急対策に従事
" 15 00	大雨情報	航空自衛隊ヘリコプター西谷村へ飛ぶ
" 16 10		陸上自衛隊に対しレンジャー部隊の派 遣要請 (大野, 西谷11名)
" 16 20	大雨洪水注意報	陸上自衛隊隊10師団司令部に対し、 ヘリコプターの派遣要請
" 20 15		陸上自衛隊隊14連隊レンジャー部隊 大野に到着
" 20 35		下笹又地区に県警無線基地局開設
" 21 05		
16 05 30	大雨, 洪水注意報解除	
" 07 00		県警, 県, 陸上自衛隊レンジャー部隊 県議等31名中島に向け大野出発 大野土木調査班, 西谷村に向け出発 参議院建設委員長一行来県 大阪府県ヘリコプター大野到着, 救助 開始 陸上自衛隊ヘリコプター空輸開始 (大野~中島間) 陸上自衛隊に対し災害派遣要請 (西谷26名)
" 09 00		
" 09 40		
" 09 50		
" 10 22		航空自衛隊ヘリコプター中島に到着 中島に警察無線基地開設
" 10 45		陸上自衛隊員20名中島到着, 食糧手 渡
" 12 00		航空自衛隊偵察機奥越地方の偵察状況 を通信筒にて県庁へ投下
" 12 05		陸上自衛隊に対し災害派遣要請 (大野 勝山106名)
" 14 30		知事, 参議院建設委員一行現地調査
" 16 00		民間ヘリコプター借上決定 愛知県警へリ, 大野到着, 救助開始
" 17 20		県警機動隊中竜部落の孤立者3名救助
" 18 10	大雨注意報 (台風24号)	

日 時	気象及び被害発生 の 概況	応 急 対 策 の 概 況
18日 19時 24分		陸上自衛隊増援隊員106名
" 23 30		大野市到着、直ちに応急対策に従事
17 02 00		同上45名福井市到着直ちに勝山市へ 才10師団司令部より高崎二佐来庁派 遣部隊の調整を行う
" 10 15	台風情報 1号	
" 10 30		建設大臣来県奥越地方へ出発
" 12 10	風雨波浪注意報	
" 14 45	台風情報 2号	
" 15 00	防災気象連絡会	
" 16 30	暴風雨、洪水、波浪警報発令	県下各市町村に嚴重警戒を指示
" 17 00		才三配備指令 (県庁職員全員待機)
" 17 10		中島および上笠又より255名大野市に 避難完了
" 18 30	川西町市の瀬で山崩1名死亡	
" 18 55	台風情報 3号	
" 19 06	福井瞬間風速28.0 m	
" 19 34	鯖江市避難命令を出す	
" 20 00	敦賀市 "	
" 20 20	県庁内1時停電、ロウソクで執務嶺南 地方の電話ふくそうして来る。 三方町避難命令を出す	奥越地方本部大野職安に移転
" 20 24	大飯町 " (佐分利川はんらん)	
" 20 45	台風情報 4号	
" 21 10	南条町避難命令を出す 上中町 "	
" 21 20	国鉄大鳥羽駅で列車立往生 三方町において山津波発生 国道27号不通	
" 21 30	今立町避難命令を出す	
"	上中町河内で河川はんらん2名死亡	
" 22 00	勝山市避難命令を出す	

日 時	気象及び被害発生 の 概況	応 急 対 策 の 概 況
17日23時00分	今立町大滝で山崩 14 人生埋 10 人死亡	水 2 配備に切替
" 23 02	敦賀で瞬間最大風速 26.1 m	
" 23 15	美浜町避難命令を出す	
" 23 30	台風情報 5号	大飯町に対し災害救助法適用
18 00 15	水防警報水 2号	
" 01 00		三方町に対し災害救助法適用
" 01 30	洪水警報, 風雨波浪注意報	
" 01 40	九頭竜川水防警報水 3号	
" 01 55	清水町日野川堤防快壤	
" 02 30		小浜市に対し災害救助法適用
" 03 30		鯖江市 "
" 03 40	武生市日野川堤防快壤	
" 04 00		武生市 "
" 06 00	洪水注意報	今立町 "
" 06 40	水防警報水 4号	
" 07 30		陸上自衛隊に対し災害派遣要請 (今立 51 名)
" 08 45		厚生省官房長来県
" 09 15		県警機動隊今立町へ出発
" 09 30		北陸開発委員長来県
" 10 30		上中町に対し災害救助法適用
" 11 40		陸上自衛隊員今立町で救助作業開始
" 12 00		清水町に対し災害救助法適用
" 13 30		陸上自衛隊水 10 師団長来県
" 13 30		名田庄村に対し災害救助法適用
" 15 20		高浜町に対し災害救助法適用
" 19 20	洪水注意報解除	
" 19 30		陸上自衛隊に対し三方町への自衛隊派遣要請 (三方 37 名)
19 8 00		警察ヘリコプター撤収
" 8 30		厚生省施設課長補佐外来県
		大阪通産局総務部長外来県
" 12 00		自衛隊各部隊に対し明日を期し撤収要請 (三方を除く)

日 時	気象及び被害発生 の 概況	応 急 対 策 の 概 況
18日 17時00分	北電中島へ送電開始	航空自衛隊ヘリ撤収 県は本災害を409 三大風水害と命名
20 08 00		陸上自衛隊各部隊撤収 (ヘリを含む)
" 10 00		臨時県会
" 11 30		三方町へ自衛隊到着 38名
" 13 50		西谷村, 大野市に対し災害救助法適用 期間延長
21 13 40		中央防災会議調査団一行ヘリコプター にて三方町到着 ～県庁～福井市泊
22 07 40		中央防災会議調査団一行福井出発, ～勝山～大野～西谷
22 13 10		三方町派遣自衛隊撤収要請
23 13 45	大野市にて赤痢発生	奥越本部にて緊急措置
24 08 00		知事, 議長上京し陣情
" 10 00		農林大臣来県
" " "		建設省河川局長来県
25 12 00		奥越地方本部大野県税へ移転
28 17 10		消防庁係官来県
29 16 00		衆院災害対策特別委員調査団一行来県
昭和40年 10月		
2 14 20		参議院災害調査団来県
4 16 30		県災害対策本部同奥越地方本部廃止

以 上

## 第 2 被 害 状 況

### 1. 人 的 被 害

区 分	23号台風(A)	奥越豪雨(B)	24号台風(C)	計(A)+(B)+(C)	備 考
死 者	3人	11人	19人	33人	
重 傷 者	20	5	6	31	
軽 傷 者	70	19	85	174	
被 災 人 口	55,535	86,260	61,968	203,763	

### 2. 被 害 総 括

被害総額 35.104百万円

区 分	23号台風 (A)	奥越豪雨 (B)	24号台風 (C)	計 (A)+(B)+(C)	備 考
	百万円	百万円	百万円	百万円	
1. 家屋関係	894	1,296	1,655	3,845	
2. 公共土木関係	253		15,618	15,871	奥越豪雨は24号に含む
3. 農林水産関係	1,431	3,457	5,192	10,080	
4. 商工業関係	171	1,683	2,695	4,549	
5. 公共施設関係	131	66	37	234	
6. 県営発電施設		525		525	
計	2,880	7,027	25,197	35,104	

### 3. 被 害 内 訳

#### (1) 家 屋 関 係

被害額 3,845百万円

区 分	23号台風(A)		奥越豪雨(B)		24号台風(C)		計(A)+(B)+(C)		備 考
	被害量	被害金額	被害量	被害金額	被害量	被害金額	被害量	被害金額	
住 家	全 壊	戸 64 百万円 88	戸 226 百万円 711	戸 52 百万円 139	戸 342 百万円 938				
	平 壊	201 102	76 72	102 63	379 237				
	一部破損	24,649 386	22	1,549 62	26,220 448				
	床上浸水		701 167	2,556 1,135	3,257 1,302				
非 住 家	床下浸水	11	2,836 32	9,836 105	12,683 138				
	全 壊	414 103	144 186	112 89	670 378				
	半 壊	583 58	125 96	363 44	1,071 198				
家	一部破損	17,853 157	612 32	1,150 17	19,615 206				
計	43,775	894	4,742	1,296	15,720	1,655	64,237	3,845	

## (2) 公共土木関係

被害額 15,871百万円

区分	23号台風(A)		奥越豪雨(B)		24号台風(C)		計(A)+(B)+(C)		備考	
	被害量	被害額	被害量	被害額	被害量	被害額	被害量	被害額		
河川	ヶ所 33	百万円 192	ヶ所	百万円	ヶ所 1,485	百万円 7,945	ヶ所 1,518	百万円 8,137	奥越豪雨は 24号を含む	
砂防	7	6			614	4,012	621	4,018		
道路	9	7			540	2,973	549	2,980		
橋梁	3	48			156	609	159	657		
海岸					7	79	7	79		
内訳	県工事計	44	200			1,838	12,692	1,882	12,892	
	市町村工事計	8	53			964	2,926	972	2,979	
計	52	253			2,802	15,618	2,854	15,871		

## (3) 農林水産関係

被害額 10,080百万円

区分	23号台風(A)	奥越豪雨(B)	24号台風(C)	計(A)+(B)+(C)	備考	
農産物	主要食糧作物	百万円 1,082	百万円 595	百万円 1,508	百万円 3,185	
	そ さい	48	25	83	156	
	果 樹	91	21	39	151	
	小 計	1,221	641	1,630	3,492	
耕地	農 地		596	399	995	
	農 業 施 設	20	969	1,308	2,297	
	小 計	20	1,565	1,707	3,292	
畜産	家 畜	2	3	4	9	
	施 設	38	7	38	83	
	そ の 他		1	5	6	
小 計	40	11	47	98		
林業	林 地		621	777	1,398	
	林 道		253	418	671	
	治 山 施 設		41	32	73	
	造 林		91	4	95	
そ の 他	126	236	334	696		
小 計	126	1,242	1,565	2,933		
漁 港		5		57	62	

区	分	23号台風(A)	與越豪雨(B)	24号台風(C)	計(A)+(B)+(C)	備	考
水	漁船漁具	5		93	98		
	養殖	11		91	102		
	その他	2		1	3		
	小計	23		242	265		
産	計	1,431	3,457	5,192	10,080		

(4) 商工業関係

被害額 4,549百万円

区	分	23号台風(A)	與越豪雨(B)	24号台風(C)	計(A)+(B)+(C)	備	考
商	業	百万円 115	百万円 201	百万円 680	百万円 996		
	織	43	659	1,373	2,075		
	工	13	823	642	1,478		
	計	171	1,683	2,695	4,549		

(5) 公共施設関係

被害額 234百万円

区	分	23号台風(A)	與越豪雨(B)	24号台風(C)	計(A)+(B)+(C)	備	考
公	共 施 設	131	66	37	234		

(6) 県営発電施設関係

被害額 525百万円(與越豪雨)

4. 一般被害の市町村内訳

(1) 23号台風

区 分	人的被害			住家の被害					被住家の被害			
	死者	重傷	軽傷	全壊	半壊	一部損	床浸	上水	床浸	下水	全壊	半壊
福井市	人	人	人	戸	戸	11,962					41	6
敦賀市		1	2		2	2,033					80	160
武生市	1	4	17	8	26	1,888					17	59
小浜市			1	2		57			10		7	
大野市		1	5		9	11					18	38
勝山市				1	12	62					16	15
鯖江市		2	5	11	28	2,900					13	48
足羽町			3		5	60					2	3

区 分	人的被害			住 家 の 被 害					非住家の被害	
	死 者	重 傷	軽 傷	全 壊	半 壊	一 部 損 破	床 上 水 浸	床 下 水 浸	全 壊	半 壊
美山町						5			5	
森田町				4	9	200			6	5
松岡町						43			9	
上志比村									6	1
永平寺町									2	1
西谷村						1				
和泉村	2	1		8	4	13			4	
三国町			1	1	14	24			24	12
芦原町		1		1		108			21	7
金津町		1	3		1	4			3	3
丸岡町				1		10			4	1
春江町		2	7		2	206			3	9
坂井町				1		2			6	
川西町				2	2	590			4	
今立町		4	1	1	1	50			3	3
池田町			2			3			3	5
南条町			4		26	650			12	13
今庄町						215			9	6
河野村					1	300			5	1
朝日町			3			94			3	
宮崎村				2	2	157			6	2
越前町				1		15				
越廼村						6			1	1
織田町						150				
清水町		1	2	1		115			8	1
三方町		1	3	3	6	300			16	12
美浜町			2			20			7	4
上中町			1	1	7	500		10	7	85
名田庄村					9	43			5	15
高浜町		1	6	8	23	1,229		400	30	48
大飯町					7	623			8	19
計	3	20	70	64	201	24,649		420	414	583

## (2) 奥越豪雨

区 分	人的被害			住 家 の 被 害					非住家の被害	
	死 傷	重 傷	軽 傷	全 壊	半 壊	一 部 損 破	床 上 水 浸	床 下 水 浸	全 壊	半 壊
福 井 市	人	人	人	人	戸	戸	戸 10	戸 222	戸	戸
大 野 市	1	2	1	25	20	3	61	1,233	25	30
勝 山 市	6	2	4	12	10	9	445	1,294	13	3
森 田 町							1	45		
永 平 寺 町	1									
西 谷 村	2	1	3	171	2	10	46	21	102	84
和 泉 村	1		1	18	44		39	21	4	8
計	11	5	19	226	76	22	701	2,836	144	125

## (3) 台風24号内訳表

区 分	人的被害			住 家 の 被 害					非住家の被害	
	死 傷	重 傷	軽 傷	全 壊	半 壊	一 部 損 破	床 上 水 浸	床 下 水 浸	全 壊	半 壊
福 井 市	人	人	人	戸	戸 2	戸 21	戸 105	戸 1,254	戸	戸 13
敦 賀 市			4		3	6	45	535		
武 生 市		1	27			16	305	780	1	2
小 浜 市	4			2	12	115	201	1,750	10	53
大 野 市										
勝 山 市									4	1
鯖 江 市						37	447	764		
足 羽 町								15	1	1
美 山 町										
森 田 町								78		
松 岡 町								5		
上 志 比 村					1	10				
永 平 寺 町								16		
西 谷 村										
和 泉 村										
三 国 町							31	108		
芦 原 町						1		35	1	
金 津 町								3	14	
丸 岡 町								2	359	
春 江 町										
坂 井 町										
川 西 町	1			2		2	18	48		

区 分	人 的 被 害			住 家 の 被 害						非住家の被害	
	死 者	重 傷	軽 傷	全 壊	半 壊	一 部 損	床 上 水	床 下 水	全 壊	半 壊	
今立町	10	3	11	3	1		145	695	7	1	
池田町							1	10			
南条町							52	166	1		
今庄町							1	202			
河野村							8	8			
朝日町							30	53			
宮崎村											
越前町											
越廼村								3			
織田町						100					
清水町					3	36	130	40	11	39	
三方町	1	1	7	23	36	124	343	818	14	144	
美浜町				1	1	11	126	439	10	10	
上中町	2	1	2	3	8		144	751	7	18	
名田庄村			15	2	4	320	113	175	5	25	
美浜町	1		18	16	29	725	95	343	31	48	
大飯町			1		2	25	215	372	9	8	
計	19	6	85	52	102	1,549	2,556	9,836	112	363	

### 第 3 気 象 状 況

#### 1 台風 23号

##### 1. 気象概要

###### (1) 台風の経過概要

ア 昭和40年9月2日9時、ガム島の南約280キロの海上に、弱い熱帯低気圧として発生した。中心気圧1.008ミリバール。

イ 6日6時硫黄島の南約350キロの海上北緯21.2度東経141.5度にて発達して、台風23号となる。中心気圧990ミリバール、ゆっくり北上した。

ウ その後進路を西北西に変えながら、次第に発達9日6時には南大東島の北西約50キロの海上北緯26.3度東経131.7度に達し、その後次第に北に転向した。中心の気圧940ミリバール。

エ 台風は9日21時頃から進路を北々東に変え、加速しはじめ、10日8時30分高知県安芸市に上陸した。上陸当時の中心気圧940ミリバール、最大風速50メートル、25メートル以上の暴風半径150キロで上陸直前がこの台風の最盛期であった。

オ 台風は北々東に毎時60キロの速度で進み、瀬戸内海から姫路市付近に再上陸し、近畿地方を突走って12時過ぎ、京都府宮津付近を通過して若狭湾に出た。12時の中心気圧960ミリバール、最大風速40メートル、25メートル以上の暴風半径150キロで衰えずに、福井県の沖約50キロの海上を北々東に進んだ。

カ 16時には輪島の北約25キロを通り毎時70キロの早さで北東乃至北々東に進み、北海道の沿岸を通り、11日4時には留萌付近に達した。4時の中心気圧965ミリバール、最大風速25メートル。

###### (2) 強風、降雨状況

9日は日本の西方で気圧の谷が深まり、台風の影響も加わって、8時～9時頃から全県的に雨が降り始めた。10日9時迄の雨量は嶺北山沿い地方で多く100ミリ前後であったが、山沿い地方でも割合い範囲がせまく、その他は30～50ミリであった。

10日台風が瀬戸内海から姫路市付近に再上陸する11時頃から県下全般に風雨が強くなり始め、近畿地方を通過して京都府の奥丹後半島から日本海に抜ける12時頃から県下全般に暴風雨圏内にはった。

南寄りの暴風は敦賀で14時頃迄、福井では15時頃まで続き、福井では13時43分南の風最大瞬間風速42.5メートルを観測し、敦賀では13時40分南の風最大瞬間風速40.7メー

トルを観測した。福井、敦賀とも今迄の観測記録の1位・2位となるもので、福井ではジエーン台風時の40.7メートルをしのぐもので、各地で風による可成りの被害を出した。

一方奥越山間部では11時頃から雨が強くなり12時、13時頃は時間雨量30ミリをこしたが14時頃から弱くなった。台風が能登半島北端付近を通つた16時頃には県下の風は峠をこしたが、海岸地方では10日夜半過ぎまで西ないし北西のやゝ強い吹き返しの風が続いた。

### (3) 23号台風の特徴

ア. 風の息が強く、福井では気象台開設(明治30年)以来第1位の最大瞬間風速南の風42.5メートルを観測した。又敦賀でも第2位の南40.7メートルを観測した。

イ. 降雨による被害が少なかった。

奥越山沿い地方で2日間で200ミリ前後の雨が降つたが、降り方が割合平均的であつたこと、雨の多い薄囲がせまく、平野部では雨が比較的少なかったことで、山沿い地方の小河川で若干被害が出たが少なかった。

ウ. 農作物の被害が大きかつた。

暴風による被害総額の50%は農作物の被害であつた。

### 最大瞬間風速の極値順位の更新

(福井地方気象台)

順位	1位	2位	3位
最大瞬間風速	42.5メートル	40.7メートル	35.5メートル
原因	台風23号	ジエーン台風	第2室戸台風
月日	昭和40年9月10日	昭和25年9月3日	昭和36年9月16日

## II 奥越豪雨

### 1. 気象概要

#### (1) 豪雨の特性

ア. この豪雨は、雨の強さ、量とも長崎県 早(昭和32年7月25日)の集中豪雨に匹敵する稀有のものである。

イ. このような集中豪雨は梅雨末期に多く、秋に発生したものは珍しいといえよう。

ウ. 特に雨の強い区域は、ほぼ南北に長く、幅10数キロくらいの広がりをもっている。

エ. 著しい降雨の局地性を示し、本戸の1.044ミリに対し、わずか14キロはなれた緑谷山では180ミリ、更に9キロはなれた稲荷では85ミリにすぎなかつた。

#### (2) 経過概要

日本の南の海上にあつた前線は、台風24号の北上とともに北へおし上げられ13日午後には西日本各地は雨となつた。そして14日には、本州上に停滞して殆んど動かず、南からの顕著な暖湿気流は前線上いたるところで集中豪雨を降らせた。またこの日、日本の上空は10

キロ以上まで、強い真南の風が卓越していた。

福井県地方は、14日の日中は全般に一様な雨が降っていたが、夜に入つてこれらの雨を一点に集めるかのように奥越地方に集中して激しく降つた。特に雨の激しかった21時前後には、雷も伴つた。

福井気象レーダーによると、強い雨の区域はほぼ南北に細長く、岐阜県 斐川上流から福井県西谷村にのびている、副10数キロ、長さ50キロくらいの広がりを持ち、雨雲の高度は10キロにも達していた。そしてこれらの発達した雲は、主に岐阜県側で生成され、上空の強い真南の風によつて福井県側へ流されていることがわかつた。

2～3時間、この強い雨の区域を監視しても全く変らなかつた。15日朝になつても殆んど変わらず、災害発生のため雨量通報が途絶えた。この地区の状況は、専らレーダーにより把握した。14時すぎになつて、ようやくレーダーエコーのもようが変りはじめ、強雨域は狭くなつた。そして、15時をすぎてからは更に狭くなると共に分散しはじめ、東の方へ動きだして、集中豪雨は解消に向つた。

### Ⅲ 台風24号

#### 1. 気象概要

##### (1) 台風24号の特性

(イ) 本州上の前線を刺激し、13日午後よりすでに西日本各地に強い雨を降らせた大型の雨台風である。

(ロ) 愛知県三河地方を通過した台風13号(昭和28年9月25日)と非常によく似たコースをとり、現象もこれによく似て雨は嶺南地方で圧倒的に多かつた。

(ハ) 台風23号(9月10日)、奥越地方の集中豪雨(9月14日～15日)と続く災害に、追い打ちをかけるようにして被害を一段と大きくした。

(ニ) 16日15時の最盛期における台風は

中心気圧	930ミリバール	最大風速	60メートル
暴風半径	25メートル以上は200キロ		
	15メートル以上は600キロ		

##### (2) 台風の経過概要

9月10日3時 沖の鳥島の南々東600キロの海上、北緯15.0度、東経139.0度に弱い、熱帯低気圧として発生した。中心気圧1004ミリバール。

11日9時 沖の鳥島の南々東400キロの海上、北緯16.9度、東経137.6度で台風24号となる。中心気圧995ミリバール。

14日9時 南大東島の南400キロの海上。北緯22.3度、東経130.9度で、中心気圧950ミリバール。最大風速50メートル、25メートル以上の暴風半径200キロに発達した。

15日21時 沖縄の南300キロの海上で殆んど停滞し、転向のきざしがみえはじめる。

16日15時 南大東島の西方100キロの海上で最も発達し、日本へ向つて北東に進む。本土上陸のおそれが出てきた。

17日12時 室戸岬の南250キロの海上、北緯31.0度、東経134.5度で次第に加速し毎時45キロとなる。本土上陸は必至となり、福井県地方のかなり近くを通りそうだ。

17日18時 潮岬の南すぐ近くを通る。中心気圧955ミリバール、最大風速50メートル

17日22時 愛知県の渥美半島に上陸し、中部地方内陸部を北東に進む。

これまでに県内各地とも最低気圧を観測した。

18日0時 大井川上流を通過し、福井県地方への影響は小さくなり始める。

中心気圧966ミリバール、最大風速40メートル

### (3) 気象状況

台風が襲来する前の日の16日午前中は、県下各地に晴れ間があらわれた。奥越地方の集中豪雨から一夜明けてほつとしたのもつかの間、午後からは又も雨が降り出した。そして若狭方面では16日夜には早くも70~80ミリの雨量に達した。一方、台風24号は本土に向つて北東へ進んでおり、雨はいよいよこれからといった状況である。翌17日の日中は雨は降り続いたが余り大きな変化はなかつた。

台風が潮岬近くを通りすぎる夕方頃から、嶺南地方では烈しい雨が降るようになり、愛知県東部に上陸するころまで続いた。北川上流の熊川では、この数時間で200ミリをこえる豪雨を観測した。このため嶺南地方の小さな各河川は、あつという間に洪水水位をこえて堤防決壊やはんらんが続出した。

レーダーの観測によれば、このような壊滅的打撃を与えた強い降雨域は台風の北東進と共に日野川流域にも及んだが、それより東へ移るに従い急に弱くなつた。結局、台風24号による雨は、嶺南地方に集中して多く400ミリをこえたところがあり、豪雨禍直後の奥越地方では比較的少く200ミリ以下であつた。

風も雨と同じように夕方頃から強くなりはじめ、平野部で平均10~15メートル、瞬間では、25メートルくらいの北よりの風が夜半過ぎまで吹きつづつた。そして福井では19時06分に最大瞬間風速28.0メートル。敦賀では23時02分に26.1メートルを観測したが、特に大きなやま場はなかつた。

## 第 4 県 の 活 動 状 況

### 1. 県災害対策本部の設置（21日間）

昭和40年9月14日23時50分から昭和40年10月4日16時30分まで  
 準ずるもの（第1配備）（5日間）

昭和40年9月10日9時30分から昭和40年9月14日23時50分まで  
 若狭支部（21日間県本部と同一期間）

### 2. 県災害対策本部奥越地方本部の設置（20日間）

(1) 期 間 昭和40年9月15日7時から昭和40年10月4日16時30分まで

(2) 場 所 大野市 大野土木出張所（15日07.00分から下記まで）  
 大野職業安定所（17日02.00分から下記まで）  
 大野県税事務所（25日12.00分から閉鎖まで）

(3) 担当区域 西谷村、大野市、和泉村、勝山市（初期のみ）

#### (4) 組 織

本部長 山本出納長  
 副本部長 中島税務課長  
 本部員 本庁（消防防災課長補佐外関係課職員）16名

#### (5) 活動の重点

真名川水系各部落（中島、上笹又、下笹又、上若生子、下若生子、佐開、木落等）の被災者の救助作業ならびに水防活動および防疫活動等応急対策の実施と各機関との総合調整

### 3. 応急対策の状況

主 な 項 目	期 間	概 要	担 当 班
各種被害状況の 収集、報告および市町村に対する総括的な連絡指導	9月10日	各災害ごとの被害状況を収集し、これを、中央防災会議等へ東京事務所を通じて速報し、併せて広報班を通じて報道機関へ広報した。  市町村に対し気象警報等の伝達を行ない、また被災の状況により各応急対策の指導を行なった。  被害状況の受理回数 720件 " 報告 " 40件 市町村に対する指示 630件	消防防災班
	10月4日		広報班
			東京事務所
			河川班
			奥越本部

主 な 項 目	期 間	概 要	担 当 班
自衛隊の災害派遣要請および受入	9月15日 9月22日	西谷村、大野市、勝山市、今立町、三方町の要請に基づき、それぞれ自衛隊の派遣を要請し 応急対策活動を行ないました。県本部には連絡幹部の派遣を求めて活動の円滑を期した。 要請件数 9件 実人員436人 延 1,791人 航空機 2機 ヘリコプター11機	消防防災班 救援隊受入れ第1.第2班 土木部連絡部 奥越本部
水 防	9月14日 9月18日	奥越豪雨に際しては、水位雨量その他気象情報 水防指令等の送受の他、孤立した西谷村の唯一の通信手段として水防無線を活用した。また各河川、堤防の破堤欠かいヶ所について、水防指導を行った。 その後24号台風の際は、特に日野川筋及び三方、美浜、小浜市等嶺南地方の各水防工法指導を行った。 水防団総出動延人員 26,863人 水防資器材 23,829千円	河川班 土木部各班 各土木出張所 奥越本部
災害救助法の適用	9月15日 10月23日	大野市、西谷村、勝山市、和泉村、大飯町、三方町、小浜市、鯖江市、武生市、今立町、上中町、清水町、名田庄村、高浜町の計14市町村に適用した。 また厚生省に要請して応急仮設住宅戸数と大野市、西谷村の炊出し等の期間に特別の措置を行なった。 避難所設置187ヶ所、応急仮設住宅170戸 (大野8、西谷142、勝山4、三方4、高浜5外) 炊出し給与38,488 $\frac{2}{3}$ 人、飲料水4117人、被服寝具1,719世帯、医療助産161人、救出	救助連絡班 各福祉事務所 若狭支部 医務班 教育部 奥越本部

主 な 項 目	期 間	概 要	担 当 班
		58人、住宅修理21戸、学用品(小)324人、 (中)216人、埋葬19体、死体捜索6体、死体の 処理18体、障害物除去80戸、輸送費、入夫 借上、日赤補償、合計40,760千円	
ヘリコプターに よる緊急輸送	9月15日 10月4日	自衛隊ヘリコプター 3機 16日～20日 警察ヘリコプター 2機 “ 民間借上ヘリコプター 1機 17日～10/4日 上記のヘリコプターを手配し、大野市有終中 グラウンドを基地として孤立した中島等の救援 に当たった。 被災地の偵察 12回 避難民、復旧委員、調査団の輸送 650人 緊急物資、資器材の輸送 約50トン	奥越本部 消防防災班 公安警備部 救助連絡班
防 疫	9月14日 10月2日	9月22日大野市上布子部落から赤痢の初発患 者が発生し、引続き24名の患(保菌)者が発 見され、他の地区でも1名計25名発生したが ただちに隔離病舎に収容し、適正な治療を加え たので、全員治ゆ退院した。 実施事項 予防宣伝、検病調査、患者処理、飲料水の確保 および井戸の消毒、被災家屋の消毒、そ族、昆 虫駆除、避難所の防疫指導し尿処理の指導、噴 霧器5基購入、防疫作業費 県929千円、 市町村 6,358千円	公衆衛生班 各保健所 奥越本部
応 急 教 育	9月15日 10月4日	中島小学校(宿舎大野市長勝寺) 1.2.3年児童は有終西小において2教室3学級 とし、9月20日より授業開始 4.5.6年児童は有終南小において2教室3学級	教 育 部 救助連絡班

主 な 項 目	期 間	概 要	担 当 班
		<p>とし9月20日より授業開始  中島中学校（宿舎大野市浄勝寺）</p> <p>1.2.3年生徒は有終中において中島中を開設9月20日より授業開始</p> <p>その後宿舎は10月21日に開散し大野市下掘地区の住宅団地と母子寮（後で寄宿舍完成収容）へ移った。</p> <p>若生子小学校  下若生子地区小学校児童11名は有終西小へ転入  下若生子地区中学校生徒10名は有終中へ転入</p> <p>上庄小五条方分校  佐開橋不通のため佐開の児童1.2.3年を佐開の寺で仮教場  小学校4年以上及び中学生は上庄中の寄宿舍に入る。</p> <p>富田小学校  1.2. 4.5.6年児童は残った校舎と体育館を使用、3年児童は尚徳中で授業開始（9月20日より）</p> <p>北谷小小原分校  9月20日より小原部落の道場で授業開始</p> <p>熊川小学校  河内部落の4.5.6年児童24名を河内分校に収容（約1ヶ月）</p> <p>上中中学校  河内部落の中学生27名を中学校寄宿舍に収容</p>	

主 な 項 目	期 間	概 要	担 当 班
見舞金の受理配 分	9月17日	小浜第二中学校 上根来方面の11名を二中寄宿舍に収容 教科書、学用品の給与 教科書 35校 224人 137,385円 学用品 43校 717人 143,205円 受入236口 12,841,641円	出 納 班
	12月20日	配分先(全市町村) 第1次 9月29日 6,610,000円 (全市町村 うち西谷村3,455千円) 第2次 11月1日 5,055,000円 ( " うち西谷村2,890千円) 第3次 12月24日 1,176,641円 ( " うち西谷村666,641円) 主な配分額 西谷村(7,011,641円) 和泉村(1,342千円) 大野市(1,218千円) 三方町(643千円) 高浜町(550千円) 勝山市(511千円) 鯖江市(267千円) 今立町(236千円) 武生市(208千円)	
見舞品の受理配 分	9月17日	受入24種725梱包 31,649点	保 育 班
	10月31日	配分先 西谷村 24種 375梱包 大野市 14種 128 " 和泉村 8種 43 "	

主 な 項 目	期 間	概 要	担 当 班
	以降分については日赤 県支部へ	<p>勝山市 4種 12 梱包</p> <p>鯖江市 1種 8 //</p> <p>清水町 2種 5 //</p> <p>今立町 3種 13 //</p> <p>森田町 1種 3 //</p> <p>嶺南地区 2種 138 //</p>	
県営発電所の被災に伴う措置	9月14日 10月4日	<p>9月14日21時40分発電所は被災、同22時50分発電不能となり地上約2mの濁流に洗われたため2台の発電機等は土砂に埋った。</p> <p>その後調査を行ない被害額約4億円、運転休止による損失約1億5千万円と推定された。</p> <p>9月19日より直ちに復旧作業を開始した人員資材はヘリコプターの借上げにより輸送した。</p> <p>土木関係は酒井建設、電気関係は富士電気等に行なわせ、41年1月29日より第1号機、第2号機ともに営業運転を開始した。</p>	企業部
農林対策	9月10日 10月4日	<p>食糧の緊急手配を西谷村等孤立部落に対して行なう。</p> <p>応急技術指導を稲、粃、野菜、畜産等に行ない被害の拡大を防ぐ</p> <p>農林省に対し現地視察を要請し、災害復旧の早期着工を図る。</p> <p>金融措置として農林省に自作農資金の導入を要請し、それまでの間県単でつなぎ資金の措置を講じた。</p>	農林部各班
道路対策	9月14日 10月4日	<p>寸断された国道157号線、県道大野墨俣線については直ちに応急仮橋等を架設して通行を確保した。</p>	道路班 各土木出張所

主 な 項 目	期 間	概 要	担 当 班	
		また土砂に埋まった国道27号線については早急に土砂を取除いた。		
		国道 157 10月 1日復旧		
		〃 27 9月 21日 〃		
		県道 大野墨俣線 10月 20日復旧		
		〃 上大納下山線 9月 30日復旧		
調査団の受入	9月 16日	参議院建設委員長	9月 16日	調査団受入
	〃	建設大臣	9月 17日	第 1 班
	10月 4日	厚生省 官房長	9月 18日	
		北陸開発委員長	〃	消防防災班
		厚生省施設課長補佐	9月 19日	
		大阪通産局総務部長	〃	連絡財政班
		中央防災会議調査団	9月 21日	
		農林大臣	9月 24日	各部関係班
		建設省河川局長	〃	
		消防庁係官	9月 28日	
		衆院災害対策特別委員調査団	9月 29日	
		参院災害調査団	10月 2日	
		陸上自衛隊第10師団長	9月 18日	
		航空 〃 第6航空団司令	〃	
		中央防災会議調査団（ヘリコプター陸上、航空各1）		
		団長 農林省政務次官		
		団員 総理府審議室参事官、警察庁中管警備課長、大蔵省主計局主計監査官、文部省初等中等教育局教科書管理課長、厚生省社会局施設課長補佐、農林省農地局建設部災害復旧課長、通産省中小企業庁計画部振災課長、建設省河川局砂防課長、自治省財政局指導課長、農林政務次官秘書		

主 な 項 目	期 間	概 要	担 当 班
広 報	9月10日 10月4日	報道機関に対し 被害状況を毎日定時発表し特異事項についてはその都度発表した。 庁 中央防災会議等中央諸官に対しては東京事務所より緊密に情報連絡を行なった。 (作成資料) 広報写真 災害特報 1.2.3部各800計2,400枚 // 小型掲示用 20種 4,000枚 // 全 紙 20枚 // 半 紙 10枚 資料写真 キキビネ 20種 3,000枚 // 手 札 // 2,000枚 陳 情 書 3 種 各800部 2,400部 上記資料を各界へ配付するとともに、陳情先や調査団に手渡した。 その他テレビ、ラジオの取材に協力し、またニュース等映画を2巻作成、上映して積極的な広報を行なった。	広 報 班 消防防災班 連絡財政班 東京事務所

#### 4. 警察の活動

##### (1) 台風23号災害

##### ア 福井県警察本部および警察署の活動

台風の本県通過が必至と認められた9月10日06.30県下各署長に対し、災害警備の初動態勢の確立を指令し、県、市町村等関係機関と緊密な連絡を保ちつつ事前警戒にあたったが、風は次第に強くなり被害の発生が予想されるにいたったので、08.00県本部に台風、23号災害警備本部を設置し、警備対策の万全を期した。

09.50機動隊および県下各署に対し、第1次警備体制を、また、11.00には第2次警備体制を指令し、今後の気象状況の把握と関係機関、団体との連絡協調および警備部隊の事前配備、被害の調査、負傷者の救出、交通規制、広報活動等を強力に推進させたが、主なる活

動は次のとおりである。

- (ア) 9日09.50ごろ大野郡和泉村長野、国道157号線で落石による重傷事故が発生、届出により直ちに大野署員5名が現場へ急行し、負傷者を土木建設厚生会九頭竜川診療所に収容した。
- (イ) 10日10.00ごろ風は益々激しくなり台風による危険が予想されたので、敦賀署管内の各小、中学校に対し、気象情報を伝達して注意を喚起するとともに、危険な状勢を説明したので、管内の小、中学校では即刻授業を打ち切り、全生徒を帰宅させた。
- (ウ) 10日13.30ごろ武生市姫川町帆山橋詰付近の大木が倒れ、電柱にもたれている状況で、放置しておく付近の家屋に被害をおよぼすので、電力社員および武生署員1ヶ分隊が現場に急行し、復旧作業に従事した。また、武生市蓬萊町電々公舎の建築工事現場の足場が倒壊し、銀座通りが交通不能となったので、武生署員1ヶ分隊が出動し、交通規制を行なうとともに復旧作業に従事した。
- (エ) 三国署では、9日夜半より三国町障ヶ丘にある福井地方気象台の気象レーダーに署員1名を派遣し、刻々映像される気象状況を本署ならびに県本部に報告、警備体制の万全を期した。
- (オ) 10日10.20ごろ大野郡西谷村橋原橋原地籍を防災パトロール中の自衛隊員の負傷事故が発生したので、直ちに所轄大野署員が出動し、パトカーにより負傷者を急視病院に収容救護した。
- (カ) 丹生署系生駐在所巡査高木浩一は、道路上に大木が倒れ、交通がと絶したので、直ちに現場へ急行し、これを取り除くべく大木を切断して交通を確保したが、この作業中、丸太の半分が頭部にあたり、全治1週間の負傷をした。

## (2) 奥越集中豪雨災害

### ア 福井県警察本部の活動

9月14日17.00福井地方気象台が「大雨洪水注意報」を発表し、被害の発生が予想されたので、直ちに県下各警察署長に対し降雨量の測定と災害警備活動の万全を期するよう指令した。爾来奥越地方の豪雨は益々激しくなり、21.00ごろにいたり、九頭竜川、真名川等主要河川が増水して警戒水位に達している箇所がみられ、事態は愈々深刻の度を増してきたので、同日21.30第1次警備体制に入り県本部に「災害警備本部」を設置して指揮命令の一元化をはかる一方被害の実態は握に努めた。また、大野、勝山、松岡、福井各警察署長に対して「管内の状況に応じて警備本部を設置し、関係機関水防団等と協力して危険箇所の警らと補強指導等を実施するほか、全員待機する等警備体制を強化し、災害警備に万全を期

するよう」指示した。

その後22.00現在にたって大野郡西谷村中島で毎時70～80ミリ和泉村大谷で毎時、50～60ミリの降雨量を観測し、河川の増水はらんが認められ、きわめて危険状態となったので、大野、勝山両警察署に対し第3次警備体制をその他の警察署に第2次警備体制を指令するとともに、機動隊全員を非常召集し、警備体制の万全を期したが、その頃より奥越地方各地の住家浸水等の被害状況が県本部に報告されたので、直ちに関係機関に連絡するとともに被害は益々増大するものと予想されたので、大野、勝山両警察署長に対し避難命令の伝達、避難警告、避難誘導等関係機関と緊密な連絡をとり、警戒、交通禁止、危険防止等人的被害の防止に万全の措置を講ずるよう指令した。

その後23.20ごろ勝山市猪野口地籍の国道157号線に架設してある女神川橋流失の被害を皮切りに、奥越地方各地で橋梁の流失、道路堤防の決壊や道路上の溢水、山(かけ)くずれ、家屋の流失、埋没建物の浸水田畑の冠水等の被害が続出してきたので、被災者救助、危険区域の警戒警備被害調査、交通規制等諸般の災害警備活動を強力に推進したが、その主なる活動は次のとおりである。

(ア) 孤立部落の救助活動および警察無線通信活動

A 9月14日22.30大野郡西谷村変電所から専用電話で県へ「床上浸水中救護乞う」と被害発生との連絡があったのを最後として大野郡西谷村は有線無線がと絶し、音信不通となり、以後の状況は全く知る術を失ってしまった。

また陸路も道路の原形をとどめないほど流失、埋没または決壊したほか橋梁流失などがあって寸断され完全に孤立状態となったので大野警察署に前進現地指揮にあっていた佐藤警備本部長は急拠山越えて救援隊を送ることを決意し、機動隊小隊長を長に機動隊、大野署員通信出張所員等をもって19名の救援隊を編成し、携帯食糧、照明具、医薬品およびPR20型応急無線機発動発電機を携帯15日10.30大野署を出発させた。救援隊は降り続く豪雨のなかを標高792メートルの道なき笹又峠を越え、平常では3時間の行程を山くずれや濁流に進路をさえぎられながら10時間を費して20.30下笹又部落に到着。直ちに応急無線機を組立て21.05警察本部との無電連絡に成功し、被災地からの第1報を送ったが、通信技術員の不眠不休の活躍により漸く被害の甚大なることを知ることができ警察活動にひ益するところ大なるものがあった。

さらに翌16日救援隊は一部を同地にとめて引き続き通信連絡および救助活動にあたらせるとともに、他は難路を強行して中島部落に向い、半壊の部落公民館に駐在して18日18.00までの4日間決死的な活動を行ない西谷村各部落の被害者の救助、避難誘導な

どの警備活動にあたった。

- B 奥地地方の災害規模増大に伴い15日10:00 応急出動第2班(応急無線機1式応急通信線10巻)が現地に到着、災害警備本部および下笹又派遣の第1班との連絡にあたった。翌16日09:10自衛隊ヘリコプターで通信職員2名が応急通信機械を空輸し、同日10:22被災地中島部落の中島小学校に県警応急無線局を開設した。
- C この応急無線は西谷村唯一の通信機関となり公用通信はもちろん気象情報や重要電報の伝達その他関係機関団体との重要通信のそ通はこの無線に依存するという大なる効果を挙げる事ができた。また罹災者の避難誘導や病人負傷者の救出等を警備本部に報告して、これらの被害を最少限度にくいとめるための諸政策樹立等に多大の効果を挙げるなど、その活動は警察通信の面目を遺憾なく発揮し、下記の警察ヘリコプターの活躍と相まって特筆すべきものがあった。
- D 16日05:00ごろ災害地に赴いた通信職員4名は、西谷村下笹又地籍において、流失した電々公社の電話ケーブル(28対)を発見し、濁流のなかから切断されたケーブル約50回線を引きあげ試験の結果大野署との回線が可能であることが判明し、下笹又区長宅と大野署との接続に成功、直ちに同電話で下笹又部落の被害状況および中島部落の偵察による第1報が大野署に報告され、じ後の救援活動に大いに役立った。
- E 奥越地方の集中豪雨による災害に際して有線電話の応急架設3回線応急無線局2周ウオーキー18局、可搬無線機2局、その他現有の全通信施設を投入し災害通信のそ通にあたった。

#### (イ) ヘリコプターの活動状況

交通、通信、電灯はもとより経済的にも完全に絶し陸の孤島と化した西谷村の被害状況調査と救援活動のため9月15日中部管区警察局を通じて愛知県および大阪府県ヘリコプターの応援派遣を要請したが当日は終日悪天候のため飛来できなかった。

さらに翌16日再び応援要請をして09:30天候回復により大阪府県から同日15:30愛知県警からそれぞれヘリコプター1機が現地に到着した。到着と同時に活動を開始して西谷村各部落への被害調査、負傷者、病人の救護収容および救援物資の輸送にあたったが、断続する大雨のため活動はきわめて困難を伴い、決死的なものであった。

その主な活動は次のとおりである。

- A 西谷村全域は全く通信と絶し、被害の実情すら判明せず救援の対策がとれない状況下にあつたので、まず先着の大阪府県のヘリコプターに佐藤警備本部長が塔乗して孤立部落に着陸、医薬品、救援物資を輸送し、被災民の人心安定をはかるとともに被害の実態

調査をした結果、り災者のなかに急病人があり、救助を求めている被災住民および食糧状況等被害状況がほぼ判明した。

また警察両ヘリコプターは協力して最も被害の大きかった奥越地方の各地に出動して災害状況の記録写真を撮影したが、悪天候の上に加えて濁流渦巻く中を危険を冒して現場撮影に成功したほか前記の状況は握に基き医師看護婦の輸送、負傷者、病人および避難者の救出輸送、救援物資の輸送等休息の暇もなく縦横の活動を行なった。その間に輸送したものは西谷村から大野市へ40回112名の避難者を救出したほか、大野市から西谷村へ救援物資

米 30キロ 副食物 20キロ 医薬品 3キロ 乾電池 10箱  
を輸送した。

B 特異活動としては

- (A) 大阪府県ヘリコプターは16日11.30ごろ西谷村中島から「被災地に急病人あり救助を求めている。」との無電に接し、直ちに医師、看護婦を大野市から輸送し治療にあたらせた。また9月17日10.40ごろ「大野市上若生子、下若生子地籍のり災者が再び危険にひんしたので、至急に援助たのむ。」旨の無線連絡があり、同日12.00ごろ大阪府県ヘリコプターが悪天候のなか危険を冒して上若生子部落の病弱者1名、負傷者7名を救助したほか12.30ごろ下笹又部落の重病人1名とその母1名を救出した。
- (B) 16日14.30ごろ大阪府県ヘリコプターは西谷村下笹又地籍の山狭で、がけくずれによる重傷者1名を危険を冒して無事救助に成功した。
- (C) 17日06.50ごろ両府県ヘリコプターが西谷村上笹又部落を偵察中同部落の裏山が崩壊し、民家が倒壊、埋没するおそれがあり、救助を求めているのを発見するや直ちに37戸の住民188名に対し、避難命令を発するとともに、とりあえず病弱者、老人、幼児22名を選定し、ピストン輸送により同日11.30ごろ全員を大野母子に収容した。
- (D) 18日08.00ごろ大阪府県ヘリコプターは極度の疲労と足捻挫のため倒れていた負傷者を、また10.10ごろ重病人1名をそれぞれ発見し大野市内の病院へ収容した  
また11.20ごろ愛知県警ヘリコプターは「病人あり、救護たのむ。」旨の連絡を受け、身動きのできなかつた病人、負傷者3名を救助し、大野市内の医院に収容した。
- (E) 西谷村中島部落は殆んど壊滅という大打撃を受けたが、なお降り続く雨のため危険が予想されたので、集団避難させることになり16日午後から両警察ヘリコプターに

より病人、負傷者、老人、子供の順に続々輸送し、同日大野市寺下の誓念寺など5つの寺院と母子寮に約200名を収容した。

(ウ) 機動隊の主な活動

- A 15日07.00勝山市赤根川が増水、はんらんしたため同市東大月の住民37名が救助を求めている旨の連絡があり、直ちに機動隊長以下1ケ分隊が出動したが、当時赤根川は濁流が刻々と増水し住民37名の生命は危機にひんして救助が急がれたので、ガス銃を使って救命索を打ちこみ折畳式舟艇3隻を使用して上流からさかまく濁流と流木等の危険をおかして数回にわたり部落民37名を11.20救出し、東大月分教場へ避難させた。
- B 16日11.00ごろ大野市葛蒲池真名川に架設されている若が代橋が増水のため流失寸前となったが、同橋が流失すると電話線も流失し通信がと絶するので、機動隊1ケ分隊が出動してガス銃によりザイルを張り同橋の流失防止の補強工事業に従事した。
- C 17日11.30大野市中出部落において水田冠水による利害関係から部落民が対立し集団斗争に発展する危険があり、憂慮される状況下にあったので機動隊副隊長以下2ケ分隊が現地へ急行し事態の收拾にあたった結果円満解決した。
- D 17日10.40ごろ大野市木落地籍の真名川に架設してある八千代橋に大きな木材がかかり同橋が危険となったので、機動隊副隊長以下11名が現地に急行しガス銃を発射してロープを張りさかまく濁流のなかを折畳式舟艇を操作して流木の除去に成功した。

以上のほか機動隊は15日早朝から18日夜まで現地において、り災者に対する食糧輸送、道路橋梁の応急復旧作業、り災者の避難誘導および救出広報活動、交通規則制等の活動に全力を尽し民心の安定に努めた。

(エ) 一般的な応援活動

大野、勝山署以外の各署に対しては、応援派遣を指令、県下警察一体となり、警察機能の全力をあげて警備警戒の万全を期した結果、治安は完全に確保された。

奥越地方とくに西谷村は未曾有の豪雨による大水害のため被災地の民心は不安の極に達し、交通通信はもとより経済的にも完全に孤立して濁水の中に取り残され恐怖におのいていたので、被災地に応援出動した各署の警察官は全力を挙げて避難者の誘導、り災民の救出救助道路橋梁等の応急復旧作業等にあたるとともに逐次気象情報を伝達してり災民の注意心を喚起し、かつ安心感を与えるなど強力な広報活動を推進したが、この集

中豪雨により出動した警察官は被害発生時より復旧暫定措置が講ぜられるまでの僅か1週間に延1.615名(うち応援1.109名)の多きに達した。

#### イ 警察署の活動

災害警備に出動した警察官は、自宅の被害や家族のり災特に肉身の死をもかえりみず出動し、り災者の避難誘導、救出、救援等に主目標をおいて身の危険をもかえりみずに活動を続けたが、その主なるものは次のとおりである。

(ア) 14日22.10ごろ勝山市千代田地籍勝山橋上流の九頭竜川左岸堤防が決壊したとの報告を受けた勝山署は直ちに千代田区68世帯の住民に対し避難命令を発するとともに救助部隊1ヶ小隊を現地に急行させ千代田区の住民246名余を尊光寺および勝山成器西小学校へ避難誘導したほか、危険と認められた勝山市内の6部落711世帯3,071名に対して避難警告を発し、避難誘導にあたった結果死傷者はでなかった。

(イ) 記録的な大雨を降らせた西谷村では16日06.00までに1.035ミリを観測し、このため九頭竜川、真名川など大小河川は急激に増水して平野部でも堤防が決壊するおそれがあったので、14日23.00ごろ大野署員1ヶ小隊、応援部隊1ヶ小隊をそれぞれ現地に派遣して14部落1,264世帯に対し避難誘導および救助活動を実施し、被害の未然防止に努めた。

(ウ) 14日22.15ごろ中竜鉾山の雨量は400ミリを記録し、上大納地籍の中竜鉾山廃土の堆積場(俗にボタ山という。)が幅20メートル高さ30メートルにわたって崩壊し始め、中竜部落は倒壊埋没するおそれもあったので、直ちに大野署中竜駐在所員は上大納川流域の50戸の住民に対し避難の警告を発し住民100名を中竜鉾山施設内へ避難誘導した。

15日05.00ごろ異常な音響とともに排鉾ガスの異臭を含んだ鉄砲水が襲来し、一瞬にして中竜地区の住宅等98棟を流したが、中竜鉾山社宅および大納部落400戸の住民全員が高台に避難したあとで、死傷者はなかった。また面房堆積場の崩壊当時同所見張所にいた中竜鉾業所員3名が逃げおくれ消息不明となったが、同駐在所員は鉾業所側と協議の上捜索隊15名を編成夜明けを待って出動16日16.00ごろ無事救助に成功した。

(エ) 16日警察学校生徒53名を3班にわけ、大野市五条方、土布子、木落3部落の被災地に派遣し、終日救護応急作業に従事したほか17日12.35ごろから福井、三国、丹生各署の警察官1ヶ小隊は、大野市支兼地籍の堤防決壊箇所の応急復旧作業にあたった。また17日08.00警察学校生徒53名は大野市佐開部落の橋の応急復旧作業に従事したほか大野市孤立部落への食糧等の輸送に終日従事した。

(イ) 奥越地方は全域にわたり被害が大きく、とくに交通、通信のと絶した西谷村の被災民は疲労困ぱいその極に達し被害の甚大さに自棄的な言動さえもらすものもあったが、地元警察署は機を失せず連日にわたってこれらの被災民を救助するため身の危険をかえりみず、不眠不休道なき山岳地帯、山(がけ)くずれの危険地帯あるいは泥海と化した部落を難行して食糧輸送に救出活動に全力を傾注し、被災民の復旧意欲の昂揚に努めた。

(ロ) 15日04.00ごろ勝山市北六呂師野津又山が、幅50メートル長さ500メートルにわたって崩壊したため山すその民家2戸が倒壊し、8名が生埋めとなった。

直ちに勝山署員20名、武生署員2ヶ分隊機動隊1ヶ分隊を急派し、地元防犯隊員50名および一般民と協力して、救出作業を強行し、06.00ごろ4名を救出したが、4名とも全治1週間～1ヶ月程度の傷害を負った。

さらに降り続く雨をついて作業を継続15日06.30ごろ2死体を、同日14.20ごろ残る2死体をそれぞれ発掘した。

#### (ハ) 避難誘導活動

河川の増水はらん山(がけ)くずれのおそれある危険部落に対し避難警告誘導、救出活動を活発に行ない、勝山市170世帯大野市、和泉村、西谷村1585世帯計8153名を避難誘導適切な活動により死傷者を最少限度に食い止めた。

### (3) 台風24号災害

#### ア 警察本部の活動

台風24号災害は、奥越集中豪雨の警備実施さなかに来襲したが、17日16.30福井地方気象台から「暴風雨、洪水、波浪警報」が発令され台風が本県南東を通過することが確実視され、事態は愈々深刻の度を増してきたので、この警報発令と同時に集中豪雨災害の警備本部を、そのまま台風24号災害警備本部に切換え、各署に対し第2次警備体制を指令し、警備要員の招集、災害発生危険箇所へ前進待機および避難誘導先への実態は握など災害警備活動の万全を期するよう指示した。

17日21.00ごろから県下各地の被害状況が各署から警備本部に報告されたので、直ちに関係機関に連絡するとともに、被害は益々増大するものと予想されたので、被害の実態は握に努めるとともに各署長に対し避難命令の伝達、避難警告、誘導等関係市町村と緊密な連絡をとり警察機能の全力をあげての活動を指示した。

#### イ 警察通信の活動

(ア) 台風24号の接近に伴い、17日16.45越智山無線中継所に通信技術員2名および応急資材を急送する一方、奥越集中豪雨の災害現地に派遣した応急無線局に対しては、発動

発電機の燃料をヘリコプターで輸送し、通信確保について万全の措置をとった。

- (イ) 今立郡今立町大滝の生き埋め現場との通信連絡のため今立署にウォーキーによる臨時基地局を設置し、現場にパトカーおよびウォーキーによる直通無線回線を設けて適切な通信活動を行なった。

#### ウ 警察署の活動

17日21.00ごろから県下全域にわたって河川の増水はらん、橋梁の流失、堤防、道路の決壊、山（がけ）くずれ、家屋の流失、埋没等の被害が続出したので、各署とも堤防決壊により一面泥海と化した県下各地の部落に出動、夜を徹して人命救助、被害調査、被災民の安全な場所への避難誘導等被害を最少限度に止めるよう活動するとともに、これらの被災民に対して気象情報を逐次伝達して広報活動を活発化するなど人心の安定に努めたがその主なるものは次のとおりである。

#### (ア) 人命救助活動

- A 今立郡今立町大滝地籍において裏山の吉崎山が山くずれのおそれがあったので、17日22.00ごろ所轄今立署は署員を現場に急行させて危険家屋住民に対して避難警告を発し、誘導にあたったが、警告10分後に突然 幅100メートル、高さ50メートルにわたって山くずれが発生し住宅等7棟をおしつぶした。このため避難におくれた14名が生埋めとなった。直ちに今立署員2ケ分隊と機動隊2ケ分隊を急派して地元消防団、部落民と協力して救出活動を強行した結果、即日重傷者4名を救出したが、他は埋没甚しく作業は困難をきわめ、夜を徹して作業を続行した。

しかし6名は18日早朝 3名は18日正午

救助作業もむなしく死体となって発見され残る1名も19日になって漸く死体となって発見された。

- B 17日23.00ごろ小浜市大原において西林寺の裏山が突然くずれ僧侶2名が生き埋めとなり、直ちに所轄小浜署員2ケ分隊が現場に急行、地元民と協力して救出作業を行ななかったが、土砂が深く作業は難行し、1名は即日他の1名は19日何れも死体となって発見された。

- C 17日22.00ごろ三方郡三方町三方地籍において2ケ所の山津波が発生し、住家1戸が倒壊埋没したが、所轄敦賀署では事前に避難警告して同町公民館に避難させていたため、逃げおくれた1名が犠牲となったのみで、2名は負傷したにとどまり、人身事故を最少限度に食い止めた。

- D 17日20.30ごろ坂井郡川西町市ノ瀬地籍で突然裏山が崩れ、住家1棟が倒壊し、

逃げおくれた老人1名が下敷となったが、所轄三国署では直ちに2ヶ分隊を急派して地元民と協力して徹夜で救出作業を強行し、18日午後にいたり死体を発見した。

E 17日21.00ごろ大飯郡大飯町小黒飯において山崩れが発生し、住宅1棟が倒壊し1名が生埋めとなったが、所轄小浜署は事前に1ヶ分隊を急派し避難誘導にあたったので、1名が犠牲となったのみで、他の住民はいち早く避難し難を免れた。生き埋めとなった1名は即日死体となって発見された。

F 17日21.00ごろ小浜市飯盛で2名が自宅から避難途中濁流におし流されて行方不明となったが、さらに同日21.30ごろ遠敷郡上中町河内でも自宅から避難しようとして2名が激流にのまれて行方不明となった。

所轄小浜署では直ちに署員1ヶ分隊を急派して地元民と協力捜索活動にあたったが、判明せず19日早朝より敦賀海上保安部の協力を要請した結果、同日午後までに30名の死体を発見他の1名は22日三国港沖合8マイルの海上で漁船「朝日丸」に発見された

#### (f) 避難救助活動

17日深夜から18日早朝にかけて県下全域にわたり68箇所、4678世帯21473名を危険地帯から早期に避難誘導するとともに交通規制を行なって被災地の治安確保に努めたが、その主なるものは次のとおりである。

A 17日19.00ごろ大野市佐開、五条方今井部落の裏山が集中豪雨に続く24号台風の降雨で崩壊しはじめ、再び危険となったので、所轄大野署では署員1ヶ分隊を急派し部落民159世帯752名をすばやく佐開、西応寺に避難誘導した。間もなく佐開部落の住家に大量の土砂が流れこみ、建物の被害が続出したが、死傷者はなかった。

B 17日21.00ごろ敦賀市木ノ芽川が増水はらんし、木ノ芽部落(109世帯352名)が流失するおそれがあったので、所轄敦賀署では署員1ヶ分隊を急派して避難警告を行ない本郷農協へ誘導被害防止に努めた。

C 17日24.00ごろ黒河川が増水はらんし、敦賀市和久野部落(17世帯80名)が浸水の危険状態となったので、敦賀署では署員を急派して地元消防署員と協力して避難警告を行ない、和久野神社および公民館に誘導した。

D 17日20.00ごろ武生市で日野川支流大塩谷川が増水はらんし、武生市行松町(25世帯80名)が浸水孤立し、危険状態となったので、所轄武生署では直ちに署員2ヶ分隊を出動させ、舟艇、ゴムボートにより全員を救助し、武生職業安定所に収容した

E 17日22.00ごろ鯖江市で文室川と鞍谷川の堤防が決壊したため合流点の橋立部落ほか4部落(200世帯700名)が床上浸水し、孤立状態となったので、所轄鯖江署

では署員1ヶ小隊を出動させ、舟艇ゴムボートを使用して病人、幼児、老人の順に避難救出する一方食糧、飲料水等の輸送にあたった。

## 第 5 防災関係機関の活動状況

### I 自衛隊活動状況

#### 1. 連絡幹部派遣

##### (1) 県本部

部 隊 名	氏 名	期 間	備 考
陸上自衛隊第10師団司令部	高崎 二佐 外1	40. 9. 17 02.00	
		// // 20. 08.00	
陸上自衛隊第14連隊	木口 一尉 水 一尉 外1	40. 9. 15. 05.30	途中交替
		// // 20. 08.00	
陸上自衛隊第322地区施設隊	菅原 二曹 外1	40. 9. 15. 02.00	
		// // 20. 08.00	
航空自衛隊第6航空団	小関 三尉 外1	40. 9. 15. 04.00	
		// // 16. 11.00	
自衛隊福井地方連絡部	林 一尉	40. 9. 15 08.30	
		// // 20. 08.00	

##### (2) 奥越地方本部

部 隊 名	氏 名	期 間	備 考
陸上自衛隊第14連隊	谷口 一尉	40. 9. 16. 09.50	
		// // 20. 08.00	

#### 2. 自衛隊師団長、司令 巡視

部 名	氏 名	期 間	備 考
陸上自衛隊第10師団	第10師団長 平野 陸 将	9. 18	へりにて県下一円
陸上自衛隊第14連隊	第14連隊長 浦川 一 佐	9. 18	奥越及び今立
航空自衛隊第6航空団	第6航空団司令 黒衛 一 佐	9. 18	奥越

3. 災害派遣

(1) 隊員

区 域	期 間	人 員	延人員	車 輛	応 急 対 策 概 要	部隊名・指揮官
大野～西谷 勝山	9月 15.06.00 } 20.08.00	138	690		大野より西谷への食糧輸送 笹又峠の通路開設 決壊堤防の復旧	14 連隊 三津井副連隊長 高森三佐 上田一尉
大野～西谷	9月 15.17.30 } 20.08.00	11	55		レンジャー部隊 中島部落民救出	14 連隊 北村二尉
大野～西谷	9月 16.09.50 } 20.08.00	26	104		笹又峠の通路開設	322 地区施設隊 三輪一尉
大 野	9月 16.12.05 } 20.08.00	106	424	給水車 2	水防および給水	14 連隊
勝 山	9月 16.14.45 } 20.08.00	67	268	バケツ ロード 1	北六呂師および小原の土砂崩 れ復旧	14 連隊 302 施設隊 道下一尉
今 立	9月 18.07.30 } 20.08.00	51	102		大滝生理め救出	今村一尉
三 方	9月 19.19.30 } 22.18.30	37	148	ダンブ 3 シヨベル 1	三方の民家、道路の土砂取除	101 施設大隊 坂柳二尉
計		436	1,791			

(2) 航空機、ヘリコプター

区 域	期 間	航 空 機	ヘリコプター	活 動 概 要	部 隊
大野～西谷	9月 15.09.20 } 19.17.00	偵察機 1 (延 2)	2 (延 2)	西谷村救援	航空自衛隊
〃	9月 16.07.00 } 20.08.00		1 (延 5)	同 上	陸上自衛隊
計		2	11		

II 福井電気通信部の活動状況

主 な 事 項	期 間	概 要
災害対策本部の設置	9月10日 }	台風23号により県下各地に通信施設の被害が現われた9月10日福井電気通信部内に災害対策本部を開設した。
	9月22日	建設工事の一部を中止し、請負業者を動員して応急対策必要資材、要員を確保し、ケーブルの損傷、電柱倒壊傾斜による加入電話線、市外電話回線等災害の応急復旧を急いだ。
災害対策本部の移動	9月15日 }	市外電話回線の大半が復旧した14日、再び集中豪雨の襲来により奥越地方に甚大な被害が発生したため、災害対策本部を大野電報電話局に移動して応急対策の促進と現地職員の士気昂揚を図った。
	9月16日	
応急復旧措置	9月10日 }	西谷局は交換機をはじめ通信施設は壊滅的な被害を蒙り全く孤立したため15日特別復旧作業隊を派遣し通信線の確保にあたった。
	10月13日	大野市君ヶ代橋添架ケーブル600回線のうち約200回線が流失したため直ちに仮復旧工事を施行し17日開通した。 勝山局市内北折橋附近市内ケーブル600回線が流失したためRDワイヤーで36加入者分を仮開通し、22日に全加入者分を開通させた。 三国新保橋添架ケーブル流失に対処するため臨時措置として無線機(3回線用)を三国局～新保農協間に設置し、ケーブル仮復旧までの間の通信連絡にあたった。 小浜～高浜、舞鶴方面の全市外線が不通に及んで北陸電気通信局より応援隊8名が出動し応急復旧作業にあたり9月18日、19日にかけて全回線を復旧した。 その他管内各局の被害に対し、関係職員270名、請負業者50名が応急復旧作業にあたり被害発生以来2週間内に大半の応急復旧を完了した。 西谷村 25加入者復旧完了 10月13日 通信設備復旧費 8,400万円

Ⅲ 電力関係の活動状況

主 な 項 目	期 間	概 要	担 当
台風 23 号関係警戒態勢	9月10日 ) 9月11日	各支部に対し、災害対策に万全を期するよう指示 本部長以下各班長、班員 23 名待機 サービスカー、テレビにより危険防止の広報	北陸電力
第 2 非常態勢応急復旧措置	9月10日 ) 9月11日	管内配電線の約 75 % 127 回線が断混線のため波状的に被害続出、管内 16 営業所作業員延 2000 名 車輛延 350 台が出動し、応急復旧に万全を期す。 被害状況の収集に全力をあげる。 23号台風 被 害 額 約 20,937千円 停 電 戸 数 約 1,720戸 停止電力量 1005,710 KWH	武生支部
奥越豪雨関係 災害対策本部設置 警戒態勢 第 1 非常態勢 応急復旧作業	9月14日 ) 9月18日	本部長、副本部長災害地調査 九頭竜方発電電支部に対し、災害対策に万全を期するよう指示 発電課長現地に急行し、指揮をとり防護にあたる 九頭竜方発電電作業班のほか、地元人夫、請負業者ならびに富山工作所、鯖江方発電電、富士電機 の応援隊により応急復旧にあたる。 西谷村地区の被害続出に伴い勝山、大野営業所を 中核とした所員および請負業者による復旧班を動 員し全力をあげ応急復旧にあたる。 作業員延 750 名車輛延 83 台中竜地区の被害に対 し、応急復旧資材をヘリコプターにより輸送復旧 にあたる。 災害状況をヘリコプターにより調査した結果中島 五条方発電所よりの配電線の被害が甚大なため中 島をはじめ各部落への送電を重点目標として応急 復旧にあたる。 集中豪雨による停止電力量 4368,330 KWH 停 電 戸 数 458戸	
台風 2 4 号関係		台風 24 号の接近に伴い管内配電線約 35 %にあたる 60 回線が断混線により被害が続出したため各 作業班および請負業者を動員し応急復旧に全力を あげる 作業員延 700 名 車輛 115 名 台風 24 号による停止電力量 6706,320 KWH 停 電 戸 数 2480戸	

主 な 項 目	期 間	概 要	担 当
		40. 9. 三大風水害被害収計 被 害 総 額 370,516 千円 停 止 電 力 量 12080,360 KWH	
台風23号関係 応急復旧措置	9月10日 } 9月12日	管内の送電設備および配電設備に被害を生じたため直ちに延160名の作業員を動員して応急復旧にあたる。 被 害 総 額 890千円	関西電力 舞鶴営業所
台風24号関係 応急復旧措置	9月17日 } 9月21日	耳川および熊川発電設備が災害を蒙り発電不能となり更に送電、配電通信の各設備に相当の被害を生じたため各作業班を動員して応急復旧にあたる。 作 業 員 延 360名 被 害 総 額 9628千円	

Ⅲ 日赤県支部の活動状況

主 な 項 目	期 間	概 要	担 当 班																																																							
医 療 救 護	9月15日 } 9月20日	災害の拡大に伴い救護班が待機し、15日出動指示により奥越をはじめ県下各地で医療救護活動を実施 救護班編成(延17班) (医師1 看護婦2 主事1 運転手1) 救護所開設、避難所等巡回救護にあたる 取扱い患者数(人)	救 護 班																																																							
		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>内科</th> <th>外科</th> <th>眼科</th> <th>耳鼻科</th> <th>歯科</th> <th>計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>西谷地区</td> <td>85</td> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td>1</td> <td>93</td> </tr> <tr> <td>大野地区</td> <td>213</td> <td>21</td> <td>3</td> <td>1</td> <td></td> <td>238</td> </tr> <tr> <td>勝山地区</td> <td></td> <td>5</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>5</td> </tr> <tr> <td>今立地区</td> <td>7</td> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>9</td> </tr> <tr> <td>名田庄地区</td> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>15</td> </tr> <tr> <td>高浜地区</td> <td>9</td> <td>18</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>27</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>329</td> <td>53</td> <td>3</td> <td>1</td> <td>1</td> <td>387</td> </tr> </tbody> </table>			内科	外科	眼科	耳鼻科	歯科	計	西谷地区	85	7			1	93	大野地区	213	21	3	1		238	勝山地区		5				5	今立地区	7	2				9	名田庄地区	15					15	高浜地区	9	18				27	計	329	53	3	1	1
	内科	外科	眼科	耳鼻科	歯科	計																																																				
西谷地区	85	7			1	93																																																				
大野地区	213	21	3	1		238																																																				
勝山地区		5				5																																																				
今立地区	7	2				9																																																				
名田庄地区	15					15																																																				
高浜地区	9	18				27																																																				
計	329	53	3	1	1	387																																																				
炊 出 し	9月16日 } 1.0月1日	奥越地方のり災者を救助するため日赤奉仕団により炊き出し(握り飯、ハイゼツクス)を行なう。 奉仕団員数 延 735人	大野地区 日赤奉仕団 勝山地区																																																							

主 な 項 目	期 間	概 況	担 当 班
救 援 物 資 の 交 付	9月15日	炊き出し量 23,461食	日赤奉仕団
	9月18日	り災者救護のため支部備蓄救援物資を交付した 交付先 毛布 衣料 5市10町3村 364枚 46梱包	日赤県支部
義 援 金 品 募 集 運 動	9月15日	り災者の救援を図るため日赤県支部災害対策地方	日赤県支部
	10月14日	委員会義援金品部会に諮り9月15日より1ヶ月 にわたって義援金品募集運動を展開した。 義援金受入額 1822,596円 義援品受入数 1,333梱 配 分 先 義 援 金 義 援 品 大 野 市 161,300円 102 梱 勝 山 市 126,100 88 西 谷 村 900,596 610 和 泉 村 215,600 103 三 方 町 198,100 120 高 浜 町 220,900 127	および地区 分区

## 第 6 市町村の活動状況

### 1. 災害対策本部の設置

市 町 村 名	台風23号時 設 置 月 日	豪雨および台風 24号時設置月日	災害救助法適用	備 考
	月 日 時 分	月 日 時 分	月 日 時 分	
福 井 市		9 15. 09. 00		底喰川
敦 賀 市		// 18. 00. 00		(避難命令)
武 生 市		// 17. 17. 00	9. 18. 04. 00	
小 浜 市	9. 10. 10. 30	// 17. 17. 00	// 18. 02. 30	
大 野 市	// 10. 13. 30	// 15. 01. 00	// 15. 04. 00	
勝 山 市		// 14. 22. 00	// 15. 08. 30	
鯖 江 市		// 17. 16. 30	// 18. 03. 30	
森 田 町	// 10. 13. 00	//		
西 谷 村		// 14. 22. 30	// 15. 04. 00	
和 泉 村		// 15. 11. 50	// 15. 12. 00	
三 国 町		// 18. 03. 00		
芦 原 町	// 10. 15. 00			
丸 岡 町	// 10. 13. 00			
今 立 町		// 17. 20. 00	// 18. 06. 00	
今 庄 町		// 17. 20. 00		
清 水 町		// 17. 17. 30	// 18. 12. 00	
三 方 町	// 10. 11. 00	// 17. 17. 00	// 18. 01. 00	
美 浜 町		// 17. 17. 20		
上 中 町		// 17. 19. 30	// 18. 10. 30	
名 田 庄 村		// 17. 18. 00	// 18. 13. 30	
高 浜 町	// 10. 10. 30	// 17. 03. 00	// 18. 15. 20	
大 飯 町		// 17. 18. 00	// 17. 23. 30	

### 2. 市町村長の避難の指示、勧告の状況

- (1) 避難命令を発した市町村数 上掲 22
- (2) 避難の力所 245
- (3) 避難の対象世帯、人員  
8,245 世帯 約 35,900 人

### 3. 消防機関等の活動状況

## (1) 消防職団員の災害出動

市町村数 37 消防職員延 777名 計延 9,953名  
 消防団員延 9,176名

## (2) 活動内容(主として人命の救出、救助及び避難の誘導等)

市町村名	部落名	日時	救出、救助及び 避難の別	救出、救助の人員 或は避難誘導人員	左に従事した消 防職団員の数
小 浜 市	飯 盛	9.17.15.00	救 助	82	70
	大 原	9.17.23.00	救 出	70	70
武 生 市	北 町	9.10.13.30	救 助	3	3
		9.10	救 助	12	12
	行 松 町	9.17.20.40	避 難 誘 導	60	60
	北 郷 本 町	9.10.13.17	救 助	3	3
	村 国 町	9.10.14.25	〃	3	3
	国 高 町	9.10.15.54	〃	3	3
	押 田 町	9.10.23.15	〃	3	3
敦 賀 市	井 川 町	9.17.19.00	避 難 誘 導	} 30	} 23
	谷 口 町		〃		
	中 町		〃		
	木ノ芽町		〃		
	和久野町	9.17.21.00	〃		
大 野 市	清 滝	9.15.6.00	〃	20	20
	東 大 月	9.15.1.50	〃	21	21
	上 若 生 子	9.15.1.00	救 助	3	3
	下 若 生 子	9.15.1.00	〃	3	3
	小 黒 見	9.15.5.00	〃	23	23
	堂 島	9.15.7.00	〃	13	13
	上 若 生 子	9.10.10.30	〃	3	3
勝 山 市	上 袋 田	9.15.0.00	捜 索	50	50
鯖 江 市	和 田	9.10.17.00	救 助	3	3
	五 郎 丸	9.10.14.00	〃	3	3
	西 番	9.17.19.30	避 難 誘 導	10	10
	上 杉 本	〃	〃		
	三 尾 野 出	〃	〃		
	作	〃	〃		
	下 杉 本	〃	〃		
	北 野	〃	〃		
	吉 谷	9.17.22.00	〃		
	松 成	〃	〃		
西 谷 村	中 島	9.14.21.40	〃	20	20
	上 笹 又	9.14.21.50	〃	8	9

市町村名	部落名	日	時	救出、救助及び 避難の別	救出、救助の人員 又は避難誘導人員	左に従事した 職団員の数
今立町	大滝	9.17.	18.00	救出	169	98
清水町	片山	9.18.	0.30	避難誘導	48	48
三方町	三方	9.17.	20.40	救出	25	15
上中町	未野	9.17.	17.35	救助	3	3
高浜町	大西	9.17.	18.00	避難誘導	30	30
	〃	9.17.	20.10	救出	6	3
大飯町	本郷	9.17.	18.40	避難誘導	20	20

(3) その他の活動状況（例えば水防活動、警戒、障害物の除去等）

市町村名	部落名	日	時	水防活動 警戒 障害物の除去の別	水防活動 警戒 障害物の除去人員	左に従事した消 防職団員の数		
福井市	福	9.14.	23.00	堤防補強警戒	}	}		
	門前	16.	7.00	障害物の除去				
	下江守			〃				
	若杉			〃				
	狐橋			〃				
	東下野			〃				
	西下野			〃				
	久喜津			〃				
	北南居			〃			705	605
	南南居			〃				
	合谷			〃				
	南江守			〃				
	舞屋			〃				
	江守中			〃				
	種池			〃				
西谷			〃					
淵			〃					
加茂河原			〃					
敦賀市	三島一丁目	9.17.	19.00	堤防補強警戒	}	}		
	井川			〃				
	谷口			〃				
	中			〃				
	木ノ芽			〃				
	深坂			〃				
	原			〃			305	305
	和久野	9.17.	21.00	〃				
御名			〃					

市町村名	部落名	日 時	水防活動警戒 障害物の除去の別	水防活動警戒 障害物の除去人員	左に従事した消 防職員団員数
	駄 口		堤防補強警戒		
	坂 の 下		〃		
	奥 野		〃		
小 浜 市	7 河 川		〃	409	409
大 野 市	野 中	9. 15. 1. 20	堤防補強溢水防止		12
	上 掘	9. 17. 19. 00			65
	東 山	の 2 回			25
	御 給				35
	友 兼	9. 15. 11. 20	〃		30
	開 発	9. 17. 19. 00			23
	森政領家 森				65
	清 滝				20
	東 大 目				21
	西 大 目				25
	中 津 川				15
	南新在家				20
	西新在家				20
	横 枕				15
	堂 本				20
	友 江				75
	中 狭				75
	中 保				25
	菖 蒲 池				20
	森 山				13
	西 山				13
	平 沢				20
	今 井				30
	佐 開				60
	上五条方				137
	稻 郷				65
	下五条方				35
	森政地 方				20
	吉				20
	木 落				105
	藤 生				90
	新 田				13
	新 河 原				13
	森 目				10
	土 布 子				52

市町村名	部落名	日	時	水防活動、警戒 障害物の除去の別	水防活動、警戒 障害物の除去人員	左に従事した消 防職団員の 数
	川 上					35
	田 野					52
	井ノ口					52
	柿ケ島				消防団職員	40
	松 丸				1,285	45
	堂 島				自衛隊	25
	小黒見				1,124	20
	西藤原					15
	計				2,409	1,285
勝山市	千代田	9.14.22.05	堤防補強溢水防止		消防職団員	
	高 島				1,470	1,470
	暮 見				自衛隊	
	保田出村				418	
	妙金島					
	郡					
	後					
鯖江市	大 渡					
	西番町	9.17.22.00	堤防決壊防止			
	上杉本町					
	三尾野 出作町				77	77
	下杉本町					
	北の町					
	吉谷町					
足羽町	足羽川沿線	9.10.12.00	台風警戒 水防		354	199
	永平寺町	九頭竜川	9.14.23.00	水防		240
上志比村	〃	〃	〃		32	32
和泉村	下大納	9.14.22.00	〃		386	386
	上大納					1
	中 竜					
西谷村	中 島	9.14.21.40				
	上笹又	9.14.21.50			29	29
三国町	九頭竜川 沿 線		水防		205	205
芦原町	竹田川 沿 線	9.10.12.00	台風警戒 水防		282	282
金津町	各河川沿線	9.17.13.00			120	120

市町村名	部落名	日 時	水防活動、警戒 障害物の除去の別	水防活動、警戒 障害物の除去人員	左に従事した消 防職団員の数
春江町	九頭竜川 磯部川 沿線	9.10.12.00	台風警戒	118	43
		9.15.01.00	水防		
		9.17.24.00			
坂井町	九頭竜川 竹田川 田島川	9.10.12.00	台風警戒	50	50
		9.17.12.00	水防	100	100
川西町	九頭竜川	9.18.02.00	水防	59	59
今立町	鞍谷川 月尾川 水間川 服部川 沿線	9.17.21.10	水防	98	98
池田町	魚見川 沿線	9.17.20.00	水防	65	65
南条町	鑄物師	9.17.19.00	水防	75	75
今庄町	大門 大南 八乙女 合久 稲孫	9.17.20.30	水防	84	84
		9.10.12.00	台風警戒	30	30
河野村	河野川 沿線	9.17.24.00	水防	40	40
宮崎村		9.10.14.00	障害物除去	55	55
越前町	全部落	9.10.12.00	台風警戒	135	135
		9.17.24.00	〃	130	130
越廼村	茱蒲 居赤大	9.10.13.30	台風警戒 障害物除去	195	195
		9.18.07.30			
織田町	織田	9.10.13.00	障害物除去 台風警戒	80	80
清水町	片山 新保 下殿	9.18.00.30	水防 土砂取除	48	48

市町村名	部落名	日 時	水防活動、警戒 障害物の除去の別	水防活動、警戒 障害物の除去人員	左に従事した消 防職団員の数
	清 水 和 田				
三方町	36部落	9.17.24.00	水防 土砂取除	自衛隊 111 消防団 370 その他 2000	370
美浜町	南 市	9.17.20.30	警戒	229	229
上中町	12部落	9.17.17.00	水防	310	310
名田庄村	12部落	9.17.18.30	水防	144	144
高浜町	全部落	9.17.18.00 9.17.19.30	水防	863	857
大飯町	30部落	9.17.18.40	水防	470	470
朝日町	全部落	9.17.24.00	水防警戒	65	45
森田町	九頭竜川 沿 線	9.17.24.00	// //	149	42
松岡町	//	9.10.12.00 9.14.24.00 9.17.15.00	// // //	27 72 19	27 72 19